

子どもたちの目が輝く街にするために青少年委員は働きます



千代田区

青少年委員だより

千代田区青少年委員会
こども・教育部 こども総務課

Vol. 39

2010.3

ホームページもご覧ください

千代田区 青少年委員会

検索



青少年委員会：活動の様子

Contents

P2 ポニー乗馬会

P4,5 成人の日のつどい

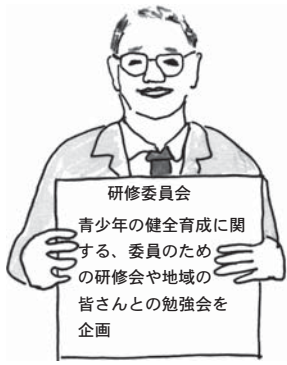
P8 年間行事
編集後記



P3 ひがた探検隊

P6,7 特集：児童館まつり





ポニー乗馬会



日時：平成21年11月22日（日）
10：00～11：30 13：00～14：30
場所：神田児童公園（千代田小学校正門前）
千代田区神田司町 2-2



ポニーに乗ると笑顔がこぼれます。

千代田区青少年委員会では、財団法人ハーモニーセンターにご協力頂き神田児童公園でポニー乗馬会を開催しました。

当日はあいにくの小雨模様の肌寒い天候でしたが、300人近くの親子さんが参加して下さいました。

並んでポニーに乗る子、小さな「アオちゃん」が引く馬車を楽しむ子、お絵かきコーナーや小動物コーナーで羊/ヤギ/ウサギ/モルモット/ハムスターと触れ合う子、どの顔もみんな輝いてニコニコして楽しそうでした。



大人気のアオちゃん馬車



お絵描き
折り紙ブースも盛況



ポニーとは簡単に言うと147cm以下の馬のこと。今回は栗毛の「アルフォンス」15歳、少し小柄な「チャチャ」、ぶちの「ジジ」、7歳の「アオちゃん」の4頭が来てくれました。



ホースセラピー

医療、教育、スポーツの三つの要素を併せ持ち、しかも心身両面への直接的セラピー効果が認められるといわれています。

例えば、馬が歩行・走行する際にその背から伝わる律動によって脳幹が刺激され機能回復訓練を促進させるとか、高い体温による温かさに包まれることによるリハビリテーション効果を示すので、障がいのあるお子さんにも癒しの効果が有るといわれています。



小動物と触れ合って



青少年委員会では全てのお子さんが笑顔になれる活動をこれからも目指していきます。

ありがとうございました

当日、朝早くからお手伝い頂いた千代田小学校の先生方・司町二丁目の皆さん・神田公園出張所及び近隣の皆さん、委員会活動に対する深いご理解とご協力に感謝致します。ありがとうございました。

ひがた探検隊



今年度で3年目を迎え内容も充実してきました。山に降った1滴の雨水が集まって川になり、海へと流れるという自然を体感しながら水の大切さや汚れた水を流さない努力をする事を学んでいます。ひがた探検を通して「自然のすばらしさ、生活と海とのつながりの大切さ」を感じてもらいたいと願ってます。



第1回「ひがたを歩こう」

大雨の中グループ毎に約20分の道のりを並んで歩き、海が見える広大なひがたに到着したのもつかの間、雷が鳴り始めバスへと逆戻り。帰り道では、カニを観察したり、大きな水溜りに入ったりと普段では出来ないような体験をしながら楽しく歩きました。大雨のため東京に戻り、区役所のホールでゲームをしてグループの交流を深めました。

第2回「すだて漁」

船で遠浅の沖に出て潮が引くのを待ち、すだての中に追い込まれた魚を網で、すくいました。
砂地ではマテ貝や、あおやぎ、あさり等、たくさん獲れました。
昼食には自分達で獲った魚を刺身やてんぷらに調理して頂き、美味しく食べました。潮が満ちて船が動くまでの間、お土産用の魚を獲りにすだてに戻り、魚を満喫しました。



第3回「山は海につながっている」

雨の為、予定していた「鉄塔コースハイキング」を中止し、川や海の水に関するオリエンテーリング方式のゲームを楽しみました。
午後からは雨もあがったので、片倉ダムを見学し、山に降った雨が海へと流れていくことを学習しました。

第4回「海苔すき体験」

型枠に細かく刻んだ生海苔を入れてすき、天日に干して乾かします。乾くまでの時間に、「ドッチビー」を楽しみました。
昼にはてっぽう巻きという漁師さん達がいつも食べている、のり巻きを自分で作って食べました。
ご指導して下さった漁師さん達に「おにぎりに巻いてある海苔1枚にも、これだけ手間がかかることを知って欲しい」と教えていただきました。
お日さまに当たって「パチパチ」と音をたてながら乾いた海苔をお土産に持って帰りました。



「ドッチビー」って・・・？

ドッチビーは、アメリカ生まれのウレタンとナイロンの素材を使用したフライングディスクで、投げやすく、捕りやすく、安全に遊べる競技です。代表的なゲームは、バレーボールのコートと同じ大きさで戦うドッジボールや、遠くへ飛ばし、飛距離を競ったり、的あて(ストラックアウト)ゲームでパネルを抜いて、抜いた枚数や、点数を競ったりするのがあります。

特徴は、当たっても痛くないので、捕るのが怖くなく、低学年でも積極的に参加できます。コツをつかめばまっすぐ飛ぶので、狙いも付けやすく、熱くなれる競技です。又、ドッチビーは千代田区の文化スポーツ課で推奨しています。

2013年「第68回国民体育大会東京大会」スポレク種目として、ドッチビーの申請も決定しました。



成人の日のつどい

—テーマ『ACTIVE (アクティブ)』—

第一部

区長、区議会議員、選挙管理委員長による来賓挨拶、落語家の三遊亭竜楽さんの講演の後、企画運営委員代表により「二十歳の宣言」を高らかに宣言し、成人を迎えた喜びと感謝に加え、成人としての自覚ある行動を誓いました。



石川区長



桜井区議会議員



中村選挙管理委員長



三遊亭竜楽さん

プロフィール紹介

三遊亭竜楽さんは、中央大学法学部御卒業後、五代目三遊亭円楽師匠に入門、1992年、真打ちに昇進されました。経歴をいかした「落語裁判」で一躍脚光を浴び、今、もっとも期待されている実力派の落語家です。

千代田区の内幸町ホールで、毎月のように、独演会を開かれ、江戸っ子気質を基底にした、粋な文化としての古典落語の内容を新しい形で現代へと伝えていらっしゃいます。現在、中央大学学員講師として大学で教鞭をとられる他、朝日新聞の「らくごよみ」連載やFMラジオパーソナリティ、脚本担当など、幅広いご活躍をなさっていらっしゃいます。



投函風景

手紙を書くことって、少なくなりましたね！昨年引き続き、お世話になった両親や恩師、友人などに感謝の気持ちの手書きのメッセージを、特設ポストに投函する「感謝の手紙」も行われました。



企画運営委員と青少年委員

今年も千代田区主催の「成人の日のつどい」が、1月11日にグランドプリンスホテル赤坂2階・クリスタルパレスで開催されました。区の募集で企画運営委員に応募した新成人4名と青少年委員3名が、議論を重ね、今回の「成人の日のつどい」を企画しました。テーマは「ACTIVE (アクティブ)」。

このテーマには「自分から進んで活動する」という思いが込められています。今年の新成人の参加者は313名でした。



企画運営委員
(左から堀川真琴、宮崎華、石川区長、野島真帆、佐俣徹)



青少年委員の事前打ち合わせ風景



二十歳の宣言 「佐俣 徹」



二十歳にカンバイ



the CRAZY ANGEL COMPANY

プロフィール紹介

the CRAZY ANGEL COMPANYさんは、楽器演奏・ダンス・カラーガード・ジャグリングなどのあらゆる表現手段を使い、新しい音楽文化の創造をめざしている団体です。メンバーのお一人お一人が、複数のジャンルを表現することで、新しいパフォーマンスの可能性を追求されています。リーダーの齋藤さんが外神田のご出身で、日頃から、千代田区の昌平童夢館で練習され、昌平音楽祭や区民体育大会にも出演、また、昌平小学校では、こども達に金管バンドの指導を行うなど、活躍されています。



「くら基金」「国境なき医師団」への募金風景

新成人の様子



ピース!



いよっ! 若旦那



笑顔がイイね



二十歳の記念



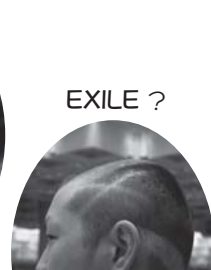
ヘアーは
ピンクです



伊達男! 4人衆



うなじが
色っほい



EXILE?



お花が可愛い



チョウタイが
決まってる!



カッコイイ!

—成人式今昔— 青少年委員の成人式って・・・。

私の成人式は昭和51年1月15日に、千代田公会堂で挙行されました。当時の区長さんは「遠山景光」と言って神田生まれの「遠山の金さん」の子孫でした。新成人は、1,690人位で今年の4.5倍いましたね。講演会は昨年亡くなられた歯に衣せぬ毒舌で有名な政治評論家「細川隆一郎」氏。目が大きくてやたらに声の大きなおじさんだ〜とだけしか覚えてません。久しぶりに会った女子の振袖姿がやけに綺麗に見えたもんです。(石井)

私の成人式は昭和56年東京都日野市で成人式に参加しました。式典が行われた小学校の体育館は寒く、排煙用のパイプをつけた石炭ストーブがいっぱい配置されていました。式典は来賓の挨拶だけの簡単なもので、余興や料理もありませんでしたが、小学校以来の仲間たちと会えてうれしかったのを覚えています。また、当時最新鋭だった弁当箱ほどもあるウオークマンを持ってきている友人がうらやましかったことや、ベビーカーで赤ちゃんを連れてきている晴れ着の同級生にびっくりしたものです。(佐藤)

私は20歳まで品川区に住んでいたので、千代田区のホテルでのパーティーのような成人式では無く、大ホールで区長さんのお話や講演を聴きました。食事は出ませんでした。記念品として道路地図と生まれた日の新聞を頂きました。(濱田)

成人式も時代や地域によって様々ですね。でも社会に出て行く上で求められていることは普遍だと思います。私たちの中には厳しい時代を通してきている者もいるので、今の成人式はうらやましくも思います。これからも成人式のお手伝いを通じて青少年をバックアップしていきます。(青少年委員会より)



ゲーム風景

各地域の児童館まつり

一番町児童館『一番町児童館まつり』 10月24日(土)開催

インフルエンザの影響か、例年よりも子ども達の参加が少なかったようでしたが、会場は大盛り上がりでした。各ブースには保護者だけでなく、大学生や高校生もお手伝いに入り、活気にあふれたお祭りになりました。以前は保護者のお手伝いだけでしたが、学生が参加する事で、児童館がより地域に密着した存在になっていっているように感じました。青少年委員は例年通りポップコーンのブースを担当。残ったチケットを、どうにか使い切ろうとして交渉する子ども達の姿がとてもかわいらしく思えました。



四番町児童館『四番町児童館まつり』 10月31日(土)開催

一番町児童館でもお手伝いしてくれた学生さん達が、四番町児童館でも手作りコーナーやゲームのお手伝いをしてくれました。学生ボランティアさん達の地域への定着度に驚きました。青少年委員はゲームのお手伝いをしましたが、お祭りの終了前に景品がなくなってしまう、子ども達に残念な思いをさせてしまいました。

富士見児童館『富士見児童館まつり』 11月7日(土)開催

約400人の参加があり、特に幼児、小学校低学年の姿が目立ちました。児童館を利用されている地域の方や保護者の方が飲食ブースを担当したり、法政大学、理科大学の学生ボランティアがブースを出したり、盛りだくさんのお祭りとなりました。青少年委員はチューベットの担当だったのですが、寒かったせいか売れ残ってしまいました。



いずみこどもプラザ『ゲーム村2009』 12月12日(土)開催

スウィングキッズによるジャズダンスや学童有志の合唱が行われた後、ゲーム村がスタート。ゲーム村では色々な種類のゲームブースが屋上スペースを含む広いホールをぐるりと取り囲み、子ども達が各ブースでゲームに挑戦、ゲームで成功するとスタンプを押してもらい、スタンプがある程度たまると景品と交換できます。近隣町会の方々や高校生ボランティア、シルバー隊がゲームを手伝い、学童保護者が飲食物のコーナーを出展し、大盛況でした。近隣の高校生や大学生たちによる参加型の劇も行われ、大いに盛り上がりました。青少年委員はドッチビーのディスクを使ったゲームを考案して、担当しました。付き添いのお父さん、お母さんの中にはディスクを投げたいと言って参加される方が多く、大人気でした。



西神田児童センター『にじまつり』 10月31日(土)開催

今年は神保町の古本まつりと重なってしまったにもかかわらず、例年どおりの約400人もの来場者があり、にぎやかに開催されました。ゲーム、バザー、手作りエコグッズ屋さん、お茶室(本格的なお点前と手作りのお菓子のおもてなし)など、様々なアトラクションが用意され、子供たちが自由に周って楽しんでいました。そして、お腹がすいたらレストランへ。地域の方々とお母さんボランティアの皆さんが作ってくれた五穀米のおにぎり・やきそば・みそ田楽の昼食で大満足。大人のみなさんにも喜んでいただきました。

実行委員の子ども達、ボランティアで準備から支えていただいた地域や保護者の方々、大学生のみなさん、児童センターの先生方、みんなの力がひとつになって楽しい一日になりました。

神田児童館『わんぱくまつり』 11月14日(土)開催 昌平童夢館5階インフル禍や悪天候の中、来場者は500人を越えました。ちびっ子のフラダンス、小学生のダンス、中高生のヒップホップでスタート。子どもたちや保護者だけではなく、昌平サロン、更女の会、昌平コミュニティスクールなど、様々な団体が参加しました。青少年委員はコミュニティの一員として、餅つきに参加。つきたての餅を皆さんに食べてもらったり、希望者には実際に体験してもらったりしました。



※青少年委員からひとこと※

地域が変わるとそこにある児童館の雰囲気や様子も変わる事に驚き、それぞれの児童館が各館独自の特徴を出し、とても楽しむ事ができました。

ひがた探検隊でお世話になっている学生ボランティアさん達や近くの高校や大学の学生ボランティアさんがたくさん参加している姿を見てとても心強く感じました。今、青少年委員会では、リーダー養成が課題になっています。彼らの働きが、子どもたちのお手本になってくれることを望み、これからも彼らを応援したいと思います。

児童・家庭支援センター吉野所長からのコメント

毎年9月から11月にかけて、各児童館や児童センターでは一大イベントとしてこどもまつりを実施しています。この行事は、児童館の子どもたちが自分たちの発想や要望を基に企画、準備、運営を進めていく実行委員会形式で行っていますが、どの館でも子どもたちだけでなく児童館を利用している大人や地域の子どもの関わる人々が加わって地域ぐるみのこどもまつりとなっています。

まつりを開催するためには、2~3ヶ月前から地域の人々、また学生や社会人ボランティアの協力を得て、子どもたちと準備を始めます。各館趣向を凝らしてダンスや劇の発表、手作りおもちゃや手芸品、食べ物等の模擬店、ゲームコーナーとその内容は様々です。

こうして児童館を拠点に子どもと大人と一緒に、ひとつの目標に向かって取り組むことが、相互の理解を深める交流の場となり、子どもを健やかに育む地域のネットワークづくりになっています。

2009年度 青少年委員会活動報告

会長より一言

会長に就任して2年目が終わろうとしています。この1年は前年度より盛りだくさんの企画となりました。目玉はなんと言ってもポニーの乗馬会でした。区内の子ども達は、普段動物と接する機会がほとんどありません。そんな千代田区の子供達にとってはピッタリの企画でした。ひがた探検隊は4回中2回が悪天候に見舞われてしまいました。雨の中では中止せざるを得ない活動もあり残念なことではありましたが、雨天用のプログラムも実施予定のプログラムに負けないくらい子ども達に楽しんでもらいました。自然を相手にする企画の難しさを痛感させられました。

委員を始め、いろいろな方々のご協力をいただき、この1年無事に活動できた事はひとえに皆様のおかげです。

本当にありがとうございました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。

来年度も委員会は青少年の健全育成を目標に行動して参ります。皆様の更なるご支援、ご協力よろしくお願い致します。

片岡 勝吾



第1回ひがた探検隊



中学校長・中等教育学校長懇談会



第2回ひがた探検隊



児童館館長との懇談会



第3回ひがた探検隊

2009年

- 4月・管内研修会実施「自閉症勉強会」
・DVD鑑賞、保護者の皆さんとの座談会、
自閉症ペアレントメンターさんのお話
- 5月・第1回ひがた探検隊
・東京都青少年委員連合会総会に参加
- 6月・中学校長・中等教育学校長との懇談会
- 7月♠ 管外研修会実施（下記参照）
・第2回ひがた探検隊
- 10月♣ 中央ブロック研修大会開催（下記参照）
・児童館長との懇談会
・第3回ひがた探検隊

- 10月・千代田区民体育大会に参加
・各地区児童館まつりに参加
- 11月・ポニー乗馬会実施

2010年

- 1月・「成人の日のつどい」開催
・中央ブロック新年会
- 2月・区長・教育長との懇談会
・第4回ひがた探検
・東京都青少年委員大会に参加



第4回ひがた探検隊



千代田区民体育大会



区長・教育長懇談会



成人の日のつどい



ポニー乗馬会



ポニー乗馬会



児童館まつり

♠ 管外研修会



第1部
『保健所？ご存知ですか？』
講師 千代田保健所長 大井 照先生
保健所の取り組み「対人保健サービス」についてご説明いただき、特に子どもと親たちに対する健康推進を学びました。

第2部

『安全対策～救命救急講習・応急手当とAEDの使い方』
子どもたちとの自然体験を行う上での安全管理の重要性を再認識し、AEDを利用した救命手当を実践しました。

♣ 中央ブロック研修大会



『我が相撲人生～継続こそ力なり』
千代田区主催で我が区にお住まいの北陣和春氏（元関脇麒麟児）の講演会を開催しました。中央区・港区を含む57名参加。親方は昭和42年、14歳の時にご両親を説得して二所ノ関部屋に入門。学校に通いながらの相撲部屋の稽古はとても厳しかったということ。
相撲は『人に勝つことより、自分に勝つこと』。どんな辛い時も陰ながら支えてくれるご両親を思い、絶対に強くなりたいという初心を忘れない様がんばっていたということです。その言葉はとても力強く、またご両親を思う優しさで満ちていました。

編集後記

一年間の活動を通して、青少年、地域、自然とふれあい、人とのつながり、自然とのつながり、動物等、生き物とのつながり等たくさんの方の事を学びました。ひとつしかない命の大切さ、地球環境の大切さを子どもたちに伝えていきたいと思っております。（江間 千重）

青少年委員会は、今年度も目いっぱい活動計画を立て、区内を駆け回りました。自然体験事業では3年目を迎えた干潟探検隊に加え、2年越しで計画を温めていたポニー乗馬会を実現。ポニーや小動物などに触れて喜ぶ子ども達を見ることができました。広報事業では去年開設したホームページを充実させ、より見易くタイムリーに委員会の事業を紹介できるようにしました。研修事業でも、相撲の北陣親方や、区保健所長をお招きして講演頂くなど、青少年に関わる各界の声を聞くことができました。さて、来年度はどんな活動ができるでしょうか？PDCA（PLAN DO CHECK ACTION）をしっかりと回し、よりよい青少年委員会を目指して行きたいと思っております。（佐藤 広志）